



市立中学校と連携し、校外学習「昼間の金星を観察しよう」を実施

令和3年11月16日(火)、金光中学校3年生(3クラス81人)が、校外学習で博物館の見学に訪れ、国内最大級の国立天文台188cm反射望遠鏡を使った昼間の金星の観察などを行いました。



この日は、はじめに校長先生からあいさつがあり、その後、3クラスがそれぞれ、(1) 国立天文台188cm望遠鏡を使った金星の観察、(2) 京都大学岡山天文台の見学、(3) 博物館内の見学、を順番にまわりました。



国立天文台188cm望遠鏡を使った金星の観察では、望遠鏡や観察の仕方などの説明の後、実際に金星に望遠鏡を向け、金星の見え方などを観察しました。あいにく薄雲が広がるなかでしたが、三日月のような形の金星が見え、観察の結果をワークシートに記録しました。(写真①②)

京都大学岡山天文台の見学では、「せいめい望遠鏡」の特徴などの説明の後、ドーム3階の外周路からガラス越しに望遠鏡を見学しました。(写真③)

博物館内の見学では、太陽ドームの望遠鏡を使った太陽の観察や、展示室で国立天文台188cm望遠鏡や「せいめい望遠鏡」についての説明などを行いました。(写真④)



最後に、生徒代表からお礼の言葉がありました。(写真⑤)

浅口市では、平成30年7月、国立天文台188cm望遠鏡の運用に関して、国立天文台、東京工業大学と協定を結び、それにより、浅口市が独自に観光や教育目的で利用できるようになりました。今回は、教育利用の一環として、188cm望遠鏡を使って実際に金星を観察し、金星の見かけの形と大きさの変化について考える、中学校理科「月や金星の運動と見え方」の学習につなげました。

